

育ちと学びをつなぐ

2026.9.14

福島県教育庁義務教育課
(ふくしま幼児教育研修センター)
第2号

福島県教育委員会では、田村市、喜多方市、南相馬市を幼児教育推進地区として指定し、幼児教育の質的向上や架け橋期の教育の充実、家庭や地域との連携に関する実践研究に取り組んでいただいています。センターだより2～4号では、推進地区の取組を紹介します。

架け橋期：義務教育開始前後の2年間のこと（年長4月～小学校1年生3月まで）

「迷路が壊れた時、みんなが支えてくれた!」

田村市では、7月に大越こども園年長組と大越小学校1年生の交流活動（「みんなでたのしもう にこにこなつまつり」）を実施しました。1年生が迷路、的当て、魚釣り、輪投げのお店屋さんになって、招待した年長組さんに楽しんでもらおうと準備や運営も工夫しながら取り組みました。年長組さんははじめこそ緊張していたものの、笑顔で「なつまつり」を楽しみました。

この交流活動の様子を、保護者や地域の方にも公開し、活動（なつまつり）を通して子どもたちはどんなことを学んでいたのか、参観者同士で話し合いました。「迷路が壊れた時、みんなが支えていた姿は協同性の現れだと思う」「年長組の子どもたちも並んで順番を守っていた。規範意識が育っている」など、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を手がかりに子どもたちの学びを参観者全員で共有することができました。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）：園での活動全体を通して資質・能力が育まれている子どもの園修了時の具体的な姿

交流活動を公開した当日の流れ

- 1 園長・校長が幼児期の教育の特長やこれまでの交流活動の様子を説明
- 2 1年生教室の廊下から交流活動「みんなでたのしもう にこにこなつまつり」を参観
- 3 交流活動での子どもたちの学びを10の姿を手がかりに話し合う
(保護者、地域の方、園・小学校の先生)



参観後の話し合いでは、保護者や地域の方から次のような話が出されました。

家では見られない、子どもの成長や集団での活動の様子が見られて安心した。(年長児保護者)

他のお子さんの成長も大切に見守っていききたい。(1年生保護者)

地域全体で子どもの成長を見守っていききたい。(地域住民)

1年生になる準備や心構えができるので、交流活動はとても大切でありがたい。(年長児保護者)

子どもたちが楽しむ姿を見られて良かった。今後も機会があれば参加したい。(地域住民)

この交流活動は、5歳児にとって小学校生活への見通しをもつ機会になるとともに、1年生にとって5歳児に楽しんでもらえて良かったという満足感を味わう機会となりました。

また、保護者や地域の方にとっては、参観の前に交流活動の目的や10の姿について説明があったことで、子どもたちが「遊びながらたくさんのことを学んでいる」ことを実感する機会となりました。

10の姿を手がかりに架け橋期の子どもたちの学びを共に語り合いましょう！